

ではなく、今後もさらに研究を重ね、よりすばらしい成果を導き出されるよう期待しております。グループ研究発表会に審査員として参加させていただき貴重な経験となりました。ありがとうございました。

## 第5分科会

イデアパートナーズ株式会社 代表取締役社長 井手 修身

### 1. 分科会全体に対する講評

九州産業大学商学部の学生研究発表会の審査にはじめて参加して、再開発、環境問題、プロスポーツ経営、業績評価、GTと多岐にわたるテーマ設定に感心した。全体から見ると、テーマに対する課題設定、事例調査、フィールドワーク、発表の完成度にバラつきがあったと思う。昨今は、インターネット上での検索で簡単に、多くの情報が収集でき、レポートの体裁を整えることはできる。如何に課題を深掘して、分析・提言しているか、そのために現場に足を運び、自らの五感を活用しているかを評価のポイントに置いた。机上の理論だけでは、実社会のマーケティングには通用しないもの。また発表の仕方は大変重要で、人に理解してもらうための資料作成、発表の工夫・態度にはもっと時間をかけていただきたい。その中でグリーンツーリズム～みんなに広めたい～は2年生の研究発表ではあったが、その姿勢は大いに評価できた。

### 2. 各グループに対する講評

#### ①グリーンツーリズム ～みんなに広めたい～

そのテーマ通り、グリーンツーリズム（GT）の意味、統計的なデータ、取り組みの紹介、比較分析、結論という流れが出来ており、聴講者の学生さんもGTに興味を抱き、体験してみたいと感じたことから、そのプレゼンテーションの技術・態度は素晴らしかった。パワーポイントの資料も良くできていた。何より、福岡県うきは市浮羽町、宮崎県延岡市北浦町、大分県宇佐市安心院町など現地に足を運び、GTとは何かを体験やヒアリングにもとづいて、分析や提言をしていることを高く評価した。筆者も地域の活性化策の一つとして農山村のGTに携わることがあるが、その活動が一過性の民泊体験、農業体験になっているものが少なくない。持続可能なGTとしてプレーヤーのリーダーシップ、組織づくり、生業の方向性の明確化などで、今後も学生さんの研究課題として深めてもらいたい。

## ②香椎祭出店における「利益配分に伴う業績評価」

事前計画と業績評価システムの導入を、具体的に香椎祭のバザー出店で検証してみたと言う着眼点は非常におもしろい。業績評価をポイント制で利益配分を行うことで、準備段階のゼミ生のチームワークが高まり、個々のモチベーションが上がったことを実体験できたことは高く評価したい。ただ、バザー出店での売上、利益は、当日の働きぶりが直結する訳で、このサービスへの個々の関与に評価システムを導入してもらいたかった。すると、だれが、どの様に業績評価を行うか等、もう少し踏み込んだ課題がでてきたはずである。また、プレゼンテーションでは、準備や出店の様子を写真など使用して工夫が欲しかった。今後もサークル活動やゼミ研究に導入して、検証していただきたい。

## ③プロスポーツ球団の経営のありかた ～スポーツとお金の関係～

プロスポーツ球団の経営をプロ野球とJリーグの経営のやり方の比較から分析して、結論を導き出したことは、わかりやすかった。プロ野球は「完全競争型」「地方分権型」の「企業主導型」であり、Jリーグは「戦力均衡型」「中央集権型」の「地域密着型」の経営であると位置づけて、プロ野球のファンの獲得という視点、財力の差が球団の強さになるという問題点を指摘ことは評価できる。但し、プロ野球、Jリーグの球団経営の在り方は、リーグ全体の仕組みに起因するものと球団自身の方針・運営に起因するものとあり、そこが混在して分析、結論づけられている点が見られた。例えば、プロ野球の球団個々の経営方針や運営による顧客獲得とお金に関する違いが分析できれば、よりおもしろい方向性が見えてのではないだろうか。プレゼンテーションはわかりやすかった。

## ④エコイノベーション～地球環境を取り巻く動きを中心に～

地球環境における温暖化の問題、日本国内の現状と対策、企業のCO<sub>2</sub>削減のためのエコイノベーション事例を文献などからデータ収集、整理はされていた。最終的な結論として、今までの経済成長一方の政策から環境親和的な政策への転換及び企業の絶えずイノベーションが何より要求されることも共感できる。ただ、発表内容は、ある程度ネットやメディアを通して理解している範囲であり、正直あと一步踏み込んだ調査や提言が欲しかった。日本は、京都議定書での温室効果ガスの6%削減目標達成が難しいと言われている中、政府や企業がなぜCO<sub>2</sub>削減の取組みが出来ていないのか、更なる課題を露見してほしかった。今後の私達の重要な問題であるため、より問題意識を高め、研究を期待したい。

## ⑤香椎地区商店街活性化のために ～ハートフルな副都心～

大学の地域貢献のあり方、香椎の再開発を現実体験として研究していくことを目的とし、今回は香椎の現状分析、再開発計画の事例研究をまとめていた。研究テーマが長い期間を要するので途中経過の報告にはなるが、香椎の現状分析については香椎商店街と九産大学生の今の関係性など、もっと学生の視点で見た香椎の現状、課題の導き方がほしかった。事例研究の門司港レトロも、香椎との関連性が薄く、他にさまざまな切り口で事例がほしかった。資料の棒読みのプレゼンテーション、パワポの出来映えも同様で、準備不足ではなかったか。大学と地域の連携、学生の視点と地域の活性化など取組むテーマは良いので、もっとフィールドワークを行い、現場での体験を報告していただきたい。

西南学院大学商学部 教授 小川 雄平

### 1. 分科会全体に対する講評

第5分科会では、模擬店経営の業績評価といった身近な問題から、大学の地域貢献、球団経営、グリーンツーリズム、地球温暖化問題まで、様々な発表が行われた。学生諸君の問題関心が多岐に及ぶことが確認できて有意義な研究発表会になった。発表は全て、発表レジュメに加えてパワーポイントを駆使して行われたこともあり、内容的にはよく理解でき、インパクトもあったように思われる。そのことは、逆に、パワーポイントの利用の如何が発表の良し悪しを決定してしまうことになる。事実、審査結果でも、パワーポイントの評価に差が出たようである。

発表内容については、身近な問題を取り上げたものも、地球規模の問題を取り上げたものも、それなりに工夫も見られ、よく理解できる内容であった。欲を言えば、どうしてその問題を取り上げたのかを明確にして欲しかった。問題意識が鮮明であれば、もっと中味の濃い発表になっていたと思われる。

全体的に評点が低かったのは、プレゼンテーション技術・態度の項目であったと思われる。パワーポイントの出来映えも良く、分かり易い内容の発表であっても、プレゼンテーションが原稿の棒読みで終始してしまうと、聞いてやろうという気にならない。パワーポイントやレジュメの作成に時間を費やしたように、プレゼンテーションにも時間をかけて準備し、理解してもらえるように工夫すべきであろう。レジュメも、誤字・脱字に気をつけることはもちろん、分かり易いレジュメにする工夫が必要であることはいうまでもない。

## 2. 各グループに対する講評

### ①香椎地区商店街活性化のために

香椎の歴史や香椎商店街の現状については、よく調査されていたが、商店街の活性化については、再開発の成功事例である「門司港レトロ」を紹介し、香椎の再開発を提言するのみで、研究の目的を大学の地域貢献のあり方に求めながら、その課題については何ら言及がなく、残念だった。自分たち学生が香椎商店街の活性化に如何にかかわれるのかという問題意識から出発すれば、何か具体的な手がかりが見つけれられたように思われる。

### ②香椎祭出店における『利益配分に伴う業績評価』

香椎祭（大学祭か？）の模擬店経営で得られた利益の配分を個々人の業績評価を基にして行ったというユニークな発表である。個々人のモチベーションを上げるために、予めポイント数を決めておき、各自の獲得ポイント数に応じて利益配分を行うことで、企業活動を疑似体験するという目的も達成されたようである。具体的な取り組みで面白かった。一、二気付いた点を記しておく、ポイント数は事前準備の段階ではなく、作業の難易が明確になる事後の段階で決めた方が良かったように思われるし、提供された資金に対する利益配当も考慮すべきだったように思われる。

### ③プロスポーツ球団の経営のあり方

サッカーJリーグのチームとプロ野球の球団とを経営面で比較し、「企業主導型」のプロ野球球団では、各球団間の資金力の差が大きく、資金力のある球団が優秀な選手を獲得できる結果強くなれる点を問題にしている。プロスポーツもスポーツである以上、資金力の差でチーム力が決まってしまうのは、ファンとしては面白くないということであろう。サッカーJリーグとプロ野球球団との比較という視点は面白いが、プロ野球の全体のシステムと個別の球団の経営との混同も見られるし、阪神は阪急と合併しているので、最近の事情も含めてもう少し詳しく調べて欲しかった。パワーポイントは分かり易くてよかった。

### ④エコイノベーション

地球温暖化問題を取り上げ、その原因とされる二酸化炭素の排出の現状と二酸化炭素削減の取り組みをまとめた発表で、レジュメもパワーポイントも分かり易くてよかった。しかし、何のための研究か明確でないこともあって、結論も平凡なものにならざるを得なかったと思われる。内容的にも問題だと思われるのは、発表のキーワードの一つである企業の

エコイノベーションの取り組み事例として、環境負荷低減のための企業の取り組みと、太陽光電池・燃料電池の開発といった電池メーカーの商品開発とを同列に取り上げて紹介している点である。企業や自分たちに何が出来るのか、何をすべきなのか、という視点で温暖化問題を捉えていれば、十分な現状認識の下に、もっと深い分析も可能になり、非凡な結論が導かれたのではなかろうか。

### ⑤グリーンツーリズム

発表者全員がグリーンツーリズムを楽しみ、広く普及させたいという気持ちが強いこともあってか、レジュメもパワーポイントも良く出来ていた。単なる参考文献からの知識の寄せ集めではなく、体験を基にした事例紹介もあり、グリーンツーリズムについてよく理解できる内容であった。グリーンツーリズムの理解を広めるためにインストラクターが必要だとの結論の導き方も自然で、説得的であった。報告内容も、レジュメ・パワーポイントの出来映えも良かっただけに、原稿の棒読みが気になった。

## 第6分科会

学校法人中村産業学園 顧問 平松 正士

### 1. 分科会全体に対する講評

今回初めて本学商学部グループ研究発表会に参加させていただきました。学生諸君がどのような研究をしているのか、また、どのような発表をするのか、私は非常に興味をもっていましたので、二つ返事で審査員をお受けしましたが、身の程知らずと後で後悔しております。第6分科会の5つのテーマを見ますと、全て学生諸君の身近な問題であり、背伸びをせず素直な態度でグループ研究に取り組めたのではないかと推察します。

私は、指示どおり4つの点、すなわち①プレゼンテーションの技術、態度、②パワーポイントの出来映え、③レジュメの出来映え、④テーマ設定および報告内容について、審査させていただきました。

5つのグループ発表は、学生らしい元気に満ちた素晴らしい出来映えで私は感動しました。全体的に見て、きちんと整理された資料とパワーポイントによる説明も要領よく明瞭に、そして整然と進められていました。また、それぞれの主張もよく理解することが出来ました。

ペーパーだけに頼らず、実地調査を実施した上で結論づけるなど、研究の基本を忠実に実行されていたと思います。制限時間内での発表は難しいと思っていましたが、各グルー